

## 概観

### 【内政】

- ・5日、社会党(BSP)による組閣マンデートの返上
- ・12日、暫定政権(選挙管理内閣)の発足

### 【外政】

- ・10日、ザハリエヴァ副首相兼外相のEU外相理事会出席
- ・20日、ポルトガル外相及び近隣政策・拡大担当欧州委員会委員のブルガリア訪問
- ・ストエフ外相による暫定政権の外交優先事項の発表

### 【経済】

- ・マリツァ・イースト2石炭火力発電所の経営状況
- ・IGBの完成時期に係るエネルギー・水規制委員会会長の発言

ブルガリアのマクロ経済指標は、ブルガリア国立銀行(<https://www.bnb.bg/Statistics/StMacroeconomicIndicators/index.htm?toLang=EN>)よりご覧になれます。

この月報はブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

## 内政

### ◆社会党による組閣マンデート返上

▶5日、ラデフ大統領は、総選挙で第3党となった社会党(BSP)に対し組閣マンデートを付与し、BSPはその場でこれを返上した。これにより、第45回国民議会による組閣は不成功に終わり、解散総選挙の実施が確実となった。

### ◆中央選挙委員会の発足

▶11日、ラデフ大統領は、15名から構成される新たな中央選挙委員会(CEC)を任命した。新CECは、改正された選挙法に基づき、7月11日に選挙を実施することが決定された

▶新たなCEC委員長には、ネイコヴァ氏(前国民議会法務委員会アソシエイト、元CEC報道官)(There is such a people: TISP 推薦)が任命された。

### ◆GERBの全国大会の開催

▶11日、GERBは、全国大会をビデオ会議

形式で開催した。同大会では、GERBの執行委員会及び管理委員会の新メンバーが選出され、また、党規則の改正が採択された。また、ファンダコヴァ・ソフィア市長及びニコロフ・ブルガス市長に代わり、ドンチェフ氏(前副首相)及びミトフ氏(第二次ボリスフ内閣時外相)がGERB副党首に就任した。

### ◆暫定政権(選挙管理内閣)の発足

▶12日、ラデフ大統領は、自身が任命した暫定政権(選挙管理内閣)を発表した。▶同大統領は、「暫定政権が直面する重要課題は、国家の正常な機能を確保し、票の売買との戦いにより公正な選挙を保証し、国の本当の姿を見極め、国家を強化するための最初の一步を踏み出し、ブルガリア人に自国が公正、透明性及び責任を持って運営できることを示すことである。本日、自分が任命して発足する政府は、暫定的なものではあるが、民主的な統一性の中で運営される政府になるという目標を掲げており、政治的左派・中道・右派の人々や政治的に中立な人々、プロフェッショナル、

実績を有する管理者或いは専門家、自由な起業家、国民の不満の代弁者、学界の代表者等で構成されている」と述べた。

▶ヤネフ暫定内閣首相は、「暫定政権は、『誠実さ・透明性・プロ意識』をモットーに運営される。短期の政権期間において、暫定政権が長期に亘り蓄積された問題を解決できるかどうかは保証できないが、問題解決のプロセスが確実に開始されるようできる限りのことをしていく最も重要なことは法の支配を維持することである。憲法が定めている暫定政権の主な優先事項は、法規定を厳守した上で、自由で公正且つ民主的な選挙を組織・実施することである」と述べた。

## 外交

### 1. ブルガリア・中国関係

#### ◆ヨトヴァ副大統領と当地駐在中国大使との会談

▶21日、ヨトヴァ副大統領は董在ブルガリア中国大使と会談を行った。

▶ヨトヴァ副大統領は、「2019年にソフィアに開設された中国-中・東欧協力センターは、当地では殆ど知られておらず、今後、本格的な取り組みを行うべきである」と述べた。

▶董大使は、「中国は、同センターを非常に重要視しており、ブルガリアが中国と中東欧諸国の17+1協力イニシアティブにおいて、積極的な役割を果たしていると認識している。

17+1フォーマットは、中国とEUとの協力の重要な一部であり、中国とブルガリアの関係と様々な分野において実際的な協力を再活性化させるであろう」と述べた。

▶また、両者は、特に教育と文化の分野でブルガリア・中国の協力関係を促進する方法について意見交換し、董大使は、中国の対ブルガリア投資を増大させたいと述べた。

### 2. ブルガリア・EU関係

#### ◆ザハリエヴァ副首相兼外相のEU外相理事

## 会出席

▶10日、ザハリエヴァ副首相兼外相は、EU外相理事会に出席し、西バルカン諸国のEU加盟に関する演説を行った。

▶同外相は、「EU加盟交渉のみでは西バルカン諸国の地政学的方向性を強化するのに十分でなく、同地域の国々は、EUの基準を遵守し、加盟国に対する資金提供されたディスインフォメーション・キャンペーンを終了する等の必要な改革を効果的に実施する必要がある。西バルカン諸国に係る議論をより頻繁に行うべきだということには同意するものの、残念ながら、4年前にブルガリアがEU議長国を務め、同地域の国々との関係強化を主張した際の議論は、現在の議論と同じような形で進んでいた。当時、ブルガリアの近隣諸国は、改革が十分に実行されていないことを正当化するため、他国を非難していた。外交・安全保障政策分野におけるEUの決定及び立場に対する西バルカン諸国の全面的なコミットメントの欠如も懸念されている」と述べた。

#### ◆ストエフ外相の臨時EU外相理事会出席

▶18日、臨時のEU外相理事会(ビデオ会議)において、ストエフ外相は、イスラエル・パレスチナ間の緊張の高まり、ガザからのミサイル攻撃、多数の死傷者を出した民間人への攻撃及びイスラエル領内におけるコミュニティ間の衝突につき深刻な懸念を表明した。

### 3. 北マケドニア関係

#### ◆ポルトガル外相及び近隣政策・拡大担当欧州委員会委員のブルガリア訪問

▶20日、ラデフ大統領は、ブルガリア訪問中のポルトガル(EU議長国)のサントス・シルヴァ外相及びヴァルーヘイ欧州委員会委員(近隣政策・拡大担当)と会談し、西バルカン諸国の欧州統合プロセスを加速させるための方策について協議した。

▶ラデフ大統領は、「EUの拡大は、バルカン

半島における善隣関係の構築において持続可能な結果を達成することに根ざす必要があり、これは時間をかけた不可逆的なプロセスでなければならない。ブルガリアは、責任あるEU加盟国として、加盟候補国がコペンハーゲン基準を満たし、欧州協力の中心である善隣友好と人権尊重の原則を推進するための支援を続けていく。ブルガリアにとり、西バルカンのEU加盟とEUの拡大は議論の余地のない優先事項である」と述べた。

▶同日、ストエフ外相もサントス・シルヴァ外相及びヴァルーヘイ欧州委員会委員と協議した。

▶ストエフ外相は「ブルガリアは、各国個別の業績という基準を尊重しつつ、西バルカン諸国の欧州統合を一貫して支持し続けている。我々は、北マケドニアとのオープン且つ完全な対話を行う用意がある。この問題については継続性があり、北マケドニアに対するブルガリア国家としての立場に変化は期待できないということを強調したい」と述べた。

#### 4. その他

##### ◆欧州委任検察官の追加任命

▶7日、欧州検察局（EPPO）は、ブルガリアの代表者1名を欧州委任検察官に追加任命したと発表した。これにより、ブルガリアは、EPPOに計4名の検察官がいることになる。また、ブルガリアからの2名の候補者は、全ての要件を満たしていないことから却下された。先月、EPPOは、ブルガリアの検察官3名を任命し、4名を拒否したと発表した。ブルガリアは、計10名の候補者を指名し、そのうち1名のみが業務を開始している。・欧州検察庁に参加している22カ国のうち、3カ国は未だ候補者を提示していない。欧州検察庁の業務開始は6月1日を予定している。

##### ◆ラデフ大統領のブカレスト9首脳会合出席

▶10日、ラデフ大統領は、NATO東部方面

に位置する同盟国のプラットフォームであるブカレスト・ナイン（Bucharest 9 : B9）の首脳会合にテレビ電話を通じて出席した。NATO首脳会合に先立ち、NATOが直面する課題について意見交換及び立場の調整が行われた。

▶同会合には、バイデン米大統領が特別ゲストとして出席し、また、ストルテンベルグNATO事務総長が出席者に向けてスピーチを行った。

##### ◆三海域イニシアティブ投資基金に関する国際会議におけるラデフ大統領の発言

▶18日、ラデフ大統領は、ブルガリア開発銀行が主催する三海域イニシアティブ投資基金（3SIIIF）に関する国際会議に出席した。・同大統領は、「3SIIIFの強化及びアンバー・インフラストラクチャー・グループへの投資顧問の誘致は、三海域イニシアティブ（3SI）が政治的から実動的な行動へと移行したことを示すものであり、ビジネスが重要な役割を果たしている」と指摘した。

▶また、同大統領は、「3SI地域の大きな可能性に基づいて、日本や韓国、カタール、その他の国々から3SIへの関心が高まっている。ブルガリアは、3SI地域の地理・時間的な境界線を越えて、3SIの下でプロジェクトを発展させるための理に適った方法を模索している。本年、ブルガリアがソフィアで開催する3SI首脳会合にギリシャを招待したのも、同地域の発展のための新たな機会を模索するためであり、南北の連結を完全に確保する必要がある。重要な運輸、エネルギー及びデジタルの連結は、ギリシャとの国境を通過しており、ギリシャの港湾や液化ガスターミナルの潜在能力を活用すべきである」と述べた。

##### ◆暫定政権の外交優先事項の発表

▶25日、ストエフ外相は、今後2ヶ月間にお

ける外務省の主な優先事項等につき説明した。  
▶外交政策の優先事項は、何よりも北マケドニアとの信頼関係を回復し、二国間対話を強化することである。我々は、北マケドニア側との建設的な対話を期待している。  
▶更に今後数ヶ月間の国際的なアジェンダとして、NATO内におけるパートナーシップ、今後予定されている加盟国外相によるビデオ会議、6月に予定される首脳会議に向けた準備がある。また、ブルガリアが議長国を務め

る3S I首脳会議にも注目している。  
▶7月11日に実施予定の議会選挙に向けた外務省の準備状況として、在外のブルガリア人コミュニティに対し協力を呼びかけている。ブルガリアは、大使を派遣する128カ国に選挙実施の同意を求めており、既に19カ国から同意を得ている。24カ国、約300箇所機械投票が行われる見込みであり、これについては中央選挙委員会の決定を待っている。

## 経済

### 1. 経済政策、産業

#### (1) インフラ関連

##### ◆マリツァ・イースト2石炭火力発電所の経営状況

▶国から10億レヴァ（約5億ユーロ）の援助を受けたにも関わらず、国営であるマリツァ・イースト2石炭火力発電所は、見通しの立たない技術的破産状態にある。同発電所は、2019年が2億800万レヴァ、2018年が3億3200万レヴァの赤字だったのに対し、2020年は3億4100万レヴァの記録的な赤字を計上した。

▶同発電所の財務報告書によれば、損失は115万レヴァに達しており、営業収益は2019年が6億7500万レヴァだったのに対し、2020年には31.99%減の4億5900万レヴァとなった。

▶厳しい結果になった主な理由のひとつに、二酸化炭素排出量に対する支出がある。2019年は3億600万レヴァだったが、2020年には3億3900万レヴァに達した。2021年には7億5000万レヴァを超える見込みであり、何故ならば、二酸化炭素排出の価格が、2020年の平均25ユーロからここ数か月で55ユーロ以上に上昇したからである。同発電所の業績報告書によれば、マリツァ・イースト2石炭火力発電所は、国家電力会社（NEK）から発電可用性サービ

ス及び二酸化炭素排出量関連の費用が負担されているマリツァ・イースト複合施設の他の発電所に比べ、不利な状況に置かれている。

##### ◆IGBの完成時期に係るエネルギー・水規制委員会会長の発言

▶ロシアからの天然ガスの代替となるアゼルバイジャンからの天然ガスがブルガリアに入る際に経由するギリシャ・ブルガリア・ガスインターコネクター（IGB）プロジェクトは、2022年半ばまでに準備ができないことが、エネルギー・水規制委員会のイヴァノフ委員長の発言で明らかになった。これは、2020年後半に完了が予定されていたプロジェクトの延期に続く新たな延期である。

▶ボリスフ首相（当時）は2月に建設現場を視察した際、「プロジェクトは完成するはずだ。これは我々にとり戦略的なプロジェクトであり、我々の（エネルギーの）多様化がかかっている」として、2021年末までにプロジェクトを完成させるべきだと述べた。業者側は、今年中にはパイプラインが地中に設置され、ガスが供給されるようになるだろうと述べていた。

#### 2. その他

##### ◆貧困率の状況：2020年度の貧困線

▶国家統計局によれば、2020年度のブルガリアの貧困線は、世帯員1人あたり月平均4

51.00レヴァであり、人口の23.8%にあたる165万9900人が貧困線以下で生活していた。

▶2019年比で、貧困線は9.2%上昇し、貧困層の割合は1.2%ポイント増加した。同時に、社会保障制度は、貧困削減に大きく貢献した。2020年のデータによれば、年金からの収入を家計に含め、その他の社会的移転（手当、社会・家族給付及び補助金）を除いた場合、貧困線以下で生活する人口の割合は、23.8%から29.9%へと6.1%増加する。逆に、年金及びその他の社会的移転を除いた場合、貧困線以下で生活する人口の割合は、17.9%増加して41.7%となる。

▶2020年、貧困層の割合は、失業者の中で最も高く61.1%となり、失業者の男性の貧困リスクは失業者の女性よりも12.3ポイント高かった。また、同年、18?64歳の被雇用者に占める貧困層の割合は、2019年比で0.7%ポイント増加して9.7%となった。貧困リスクは、正規雇用で働く人よりも非正規雇用で働く人の方が4倍高かった。同時に、正規雇用の女性の貧困リスクは、男性よりも2.1%ポイント低かった。

▶教育水準と被雇用者の貧困リスクには、強い関連性がある。ワーキングプアの割合が最も高かったのは、初等教育を受けた人及び教育を受けなかった人で65.7%であった。初等教育を受けた人のワーキングプアの割合は約2倍、中等教育を受けた人では8倍以上低かった。また、高等教育を受けた人のワーキングプアの割合は2.4%と最も低かった。

## ブルガリア内政・外交の動き（6月）

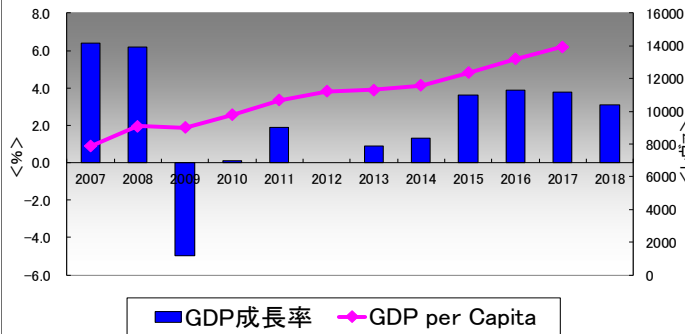
在ブルガリア大使館

1（土）	
2（日）	
3（月）	
4（火）	
5（水）	社会党（BSP）による組閣マニフェスト返上
6（木）	
7（金）	
8（土）	
9（日）	
10（月）	☆ザハリエヴァ副首相兼外相のベルギー訪問：EU外相理事会出席
11（火）	中央選挙委員会（CEC）の発足
12（水）	暫定政権（選挙管理内閣）の発足
13（木）	
14（金）	
15（土）	
16（日）	
17（月）	
18（火）	ストエフ外相の臨時EU外相理事会出席（ビデオ会議）
19（水）	
20（木）	★ポルトガル外相及び近隣政策・拡大担当欧州委員会委員のブルガリア訪問：ラデフ大統領及びストエフとの会談
21（金）	ヨトヴァ副大統領と当地駐在中国大使との会談
22（土）	
23（日）	
24（月）	
25（火）	
26（水）	
27（木）	
28（金）	
29（土）	
30（日）	
31（月）	

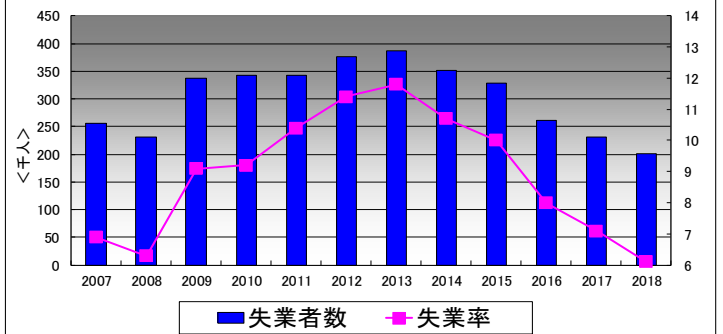
★来訪 ☆往訪

# ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局、中央銀行、財務省（日本）貿易統計)

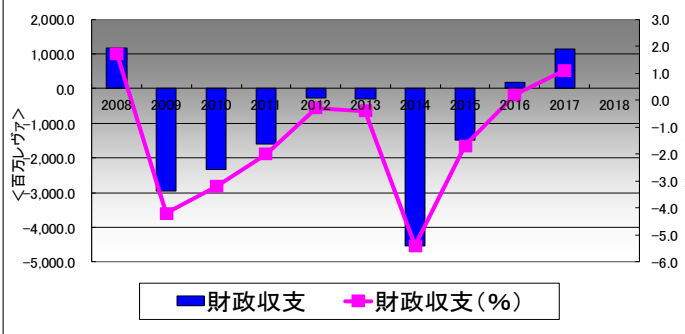
## GDP成長率と国民一人当たりGDP



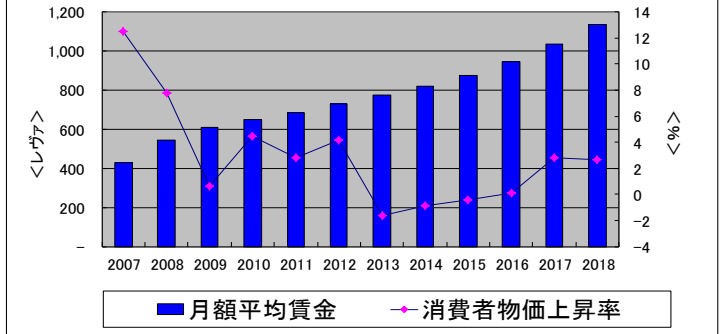
## 失業者数及び失業率



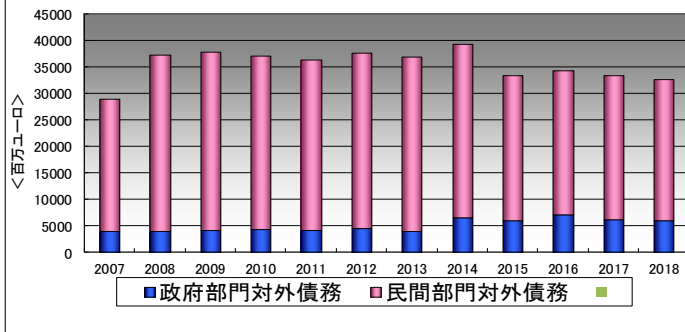
## 財政収支



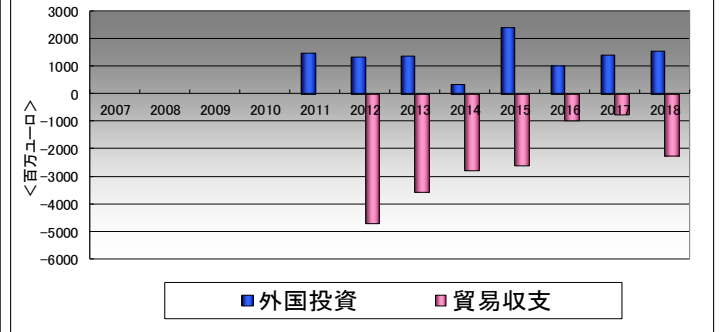
## 消費者物価上昇率と月額平均賃金



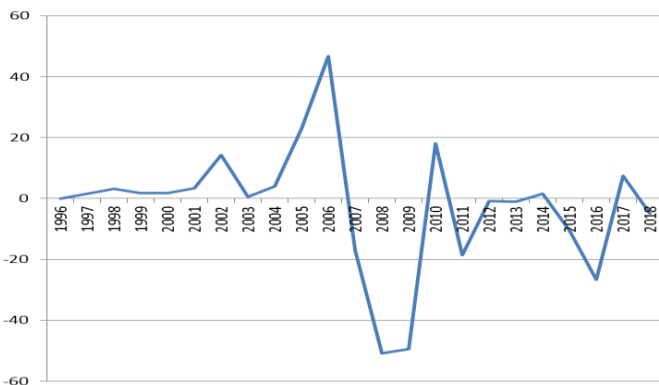
## 対外債務



## 貿易赤字と外国投資



## 日本の対ブルガリア投資額 (フロー, 単位: 百万ユーロ)



## 日本の対ブルガリア貿易の推移

